

LoA 1認定プログラムの概要と参加手続き

中村素典 / 国立情報学研究所



学術認証フェデレーション「学認」

SAML

- シングルサインオン(SSO)技術に基づく学術研究支援IT基盤の構築
- IdP-SP相互の信頼を持続する信頼フレームワークの提供





学認の事業化

- これまで
 - ▶ NII 学術ネットワーク運営・連携本部 認証作業部会(7大学 +東工大+KEK+NII)が実施する時限プロジェクト
 - ▶ 平成22年4月~平成27年3月

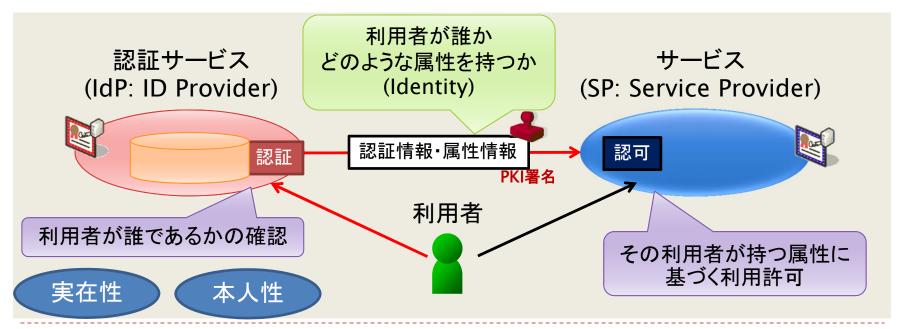


- これから
 - ▶ NII「学術認証運営委員会」(国公私立+SP代表(ICTSFC)) が実施する事業



ID連携の基礎となる認証と認可の分離

- ▶認証
 - ▶ 利用者が誰であるかの確認
- ▶認可
 - ▶ その利用者が持つ権限に対応した利用許可





「認証」「認可」分離のメリット

- クレデンシャルの一元(集中)管理
 - セキュリティレベルの統一が容易
- クレデンシャルの入力先の一元化
 - 高度な認証技術の導入が容易
- シングルサインオンへの応用
 - ▶ SSOは主目的ではない(再認証を求める運用も可能)

- ▶「ID」(識別子)と「属性」の分離
 - ▶ 仮名認証が可能
 - 学生のみ、教員のみがアクセス可能なサービス
 - グループアクセスのための認証
 - グループ情報の提供により共有パスワードが不要



よりセキュアな認証方式

- マトリックス認証
 - ▶ マトリックス自体が秘密、位置情報が秘密
- ワンタイム(使い捨て)パスワード
 - カルキュレータを利用する
- ▶ 生体認証(指紋、静脈、...)
 - ▶ 個人情報であり、漏洩すると問題
- 電子証明書
 - ▶ クライアント証明書の発行管理の仕組みが必要
 - ▶ 秘密鍵の安全な保管が重要(ICカード、USBデバイス)

5	0	G	Т	٧
Α	3	Ε	2	R
8	D	K	Р	U
Z	4	J	М	9
Q	F	L	X	7



米国InCommon における多要素認証

▶ 実際に2要素認証が必須となるのは LoA 3以上



InCommon and Multifactor Authentication



InCommon and Duo Security have formed a partnership to bring phone-based two-factor authentication to the higher education community with a low-cost site license. www.incommon.org/duo

The InCommon/SafeNet partnership offers SafeNet smart cards and USB-format PKI hard tokens at significantly discounted prices. www.incommon.org/safenet

InCommon Affiliate VASCO also offers a number of strong authentication and e-signature options. www.vasco.com

44



Duke Universityの事例

N A V	uke University etID Services
shibboleth.d	
NetID: Password:	shilen
+ <u>TiQR</u> + <u>x509</u>	inter
	at a NetID is? Not sure if you have one? Find out.

http://www.incommon.org/docs/iamonline/20111206_IAM_Online.pdf



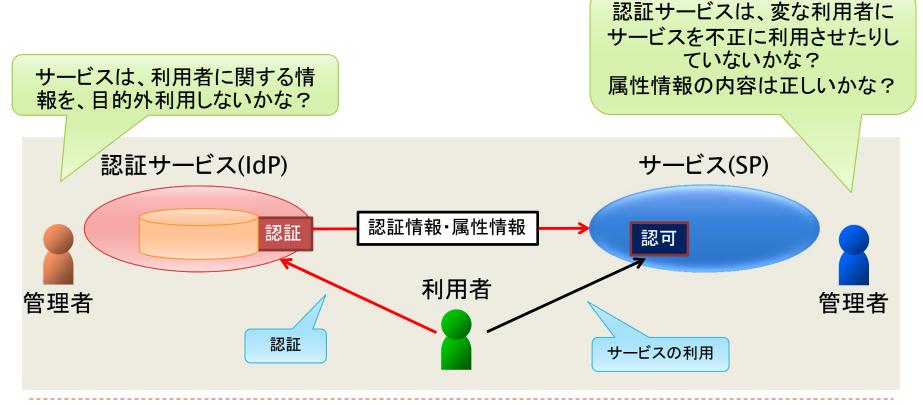
リスクに基づくサービスの分類(例)

	比較的リスクの低いもの		リスクの高いもの	
学生サービス	履修登録 施設利用予約	証明書交付		
教育研究	出席確認研究者総覧	単位互換	成績管理	
教職員業務	時間管理施設利用予約	掲示板電子申請	財務会計 決裁·稟議	人事給与 DBアクセス
福利厚生	健康診断ポイントサービス		検診履歴電子マネー	
図書館サービス	図書館入館電子ジャーナル	図書貸出		



SSO技術の組織間利用での信頼

▶ 異なる組織が個別に管理するため、相互の信頼が重要





学認で扱う属性情報(IdPからSPへ送出)

属性	内容
OrganizationName (o)	組織名
jaOrganizationName (jao)	組織名(日本語)
OrganizationalUnit (ou)	組織内所属名称
jaOrganizationalUnit (jaou)	組織内所属名称(日本語)
eduPersonPrincipalName (eppn)	フェデレーション内の共通識別子
eduPersonTargetedID	フェデレーション内の仮名識別子
eduPersonAffiliation	職種
eduPersonScopedAffiliation	職種(@scopeつき)
eduPersonEntitlement	資格
SurName (sn)	氏名(姓)
jaSurName (jasn)	氏名(姓)(日本語)
GivenName	氏名(名)
jaGivenName	氏名(名)(日本語)
displayName	氏名(表示名)
jaDisplayName	氏名(表示名)(日本語)
mail	メールアドレス
gakuninScopedPersonalUniqueCode	学生・職員番号 (@scopeつき)

実際に使われる属性情報の例

サービスA (1項目必須)

eduPersonPrincipalName(必須)

サービスB (1項目必須)

eduPersonAffiliation (必須) eduPersonTargetedID

サービスC (必須項目なし)

eduPersonEntitlement eduPersonAffiliation

必要最低限のみを送出

(参考) https://www.gakunin.jp/docs/fed/technical/attribute



認証におけるリスク

- ▶ 利用者の同一性、身元確認の確からしさ
 - ▶ ID/パスワード等を確実に本人に渡しているか
- ▶ 属性情報の確からしさ
 - ▶ 身分の変更や退職・卒業などへの対応
- ▶ 認証メカニズムの強度
 - ▶ 盗聴、リプレイ、辞書攻撃などに対する耐性
- アサーションメカニズムの強度
 - ▶ IdPの成りすまし等に対する耐性



LoA: Level of Assurance (4つのレベル)

OMB 04-04 / NIST SP800-63 / ISO 29115 / ITU-T X.1254

- ▶ OMB M-04-04 E-Authentication Guidance for Federal Agencies (2003)
- NIST SP800-63 Electronic Authentication Guideline (2006発行, 2011, 2013改訂)
- ▶ ITU-T X.1254 Entity Authentication Assurance Framework (2012-09承認)
- ISO/IEC 29115:2013 Entity authentication assurance framework

2012 04 01 DU JEWIN

世界標準へ

:15

Level	Description	
1 – Low	Little or no confidence in the asserted identity 身元確認不要、仮名(ユーザの同一性保証)、有効期限なし例:whitehouse.govのWebサイトでのオンラインディスカッションに参加	
2 – Medium	Some confidence in the asserted identity 身元識別(身分証明書)、単一要素認証、失効処理、平文PW保持× 例:社会保障Webサイトを通じて自身の住所記録を変更	
3 – High	High confidence in the asserted identity 多要素認証 (ソフトトークン可) 例:特許弁理士が特許商標局に対し、機密の特許情報を電子的に提出	
4 – Very high	Very high confidence in the asserted identity 対面による発行、ハードウェアトークン、認証後の暗号化の強化 例:法執行官が、犯罪歴が格納されている法執行データベースにアクセス	



PubMedへのアクセスとLoA

- ▶ 米国連邦政府内のサービス(SP)を、外部の認証システム(IdP)に接続する場合には、SP側がIdPに適切な保証レベル(LoA)を要求
 - ▶ かつ、要求された属性のみを送出することの保証を要求 (Privacy Impact Assessment (PIA), E-Government Act of 2002)
- PubMed(日本を含む世界約80カ国で発行される生物医学系文献の検索サイト)など、米国国立衛生研究所(NIH)が提供する95のサービスの要求はLevel 1(最低)



- 学認は、学認のIdPにLevel 1を発行できる Trust Framework Providerに
 - 米OIX (Open Identity eXchange、 非営利組織)のメンバー





学認によるLoA1認定

- 米国FICAM信頼フレームワークにおけるLoA 1に準拠 したIdP評価
 - ▶ 2012年7月4日より学認にて評価開始
 - ▶ 申請ベース(無償)
 - ▶ 毎年更新
 - ▶ OIX認定評価人:佐藤周行准教授(東京大学、NII客員)

国立情報学研究所 平成24年7月17日付報道発表より:http://www.nii.ac.jp/news/2012/0717/ 契約(個別) オンラインID 認証・データ連携 オンラインID 発行サイト 受入サイト (IdP) 認証 (RP) 利用者 従来の個別交渉モデル Google PayPal 信頼フレームワークモデル Equifax ポリシーメーカー VeriSign US FICAM(政府) Verizon 認定 など オンラインID 信頼フレームワー -ク提供者 オンラインID 発行サイト 契約 契約 (TFP) 受入サイト (IdP) OIXなど(民間) (RP) 評価 認定 类型松门 NIH(国立衛生研究所) 学認参加 NLM(国立医学図書館) 評価人 大学等 評価 LOC(米国議会図書館) 評価人 など @ GakuNin サービス 認証 利用者

認証・データ連携

LoA1認定プログラム説明会2013



山形大学をFICAM LoA 1認定

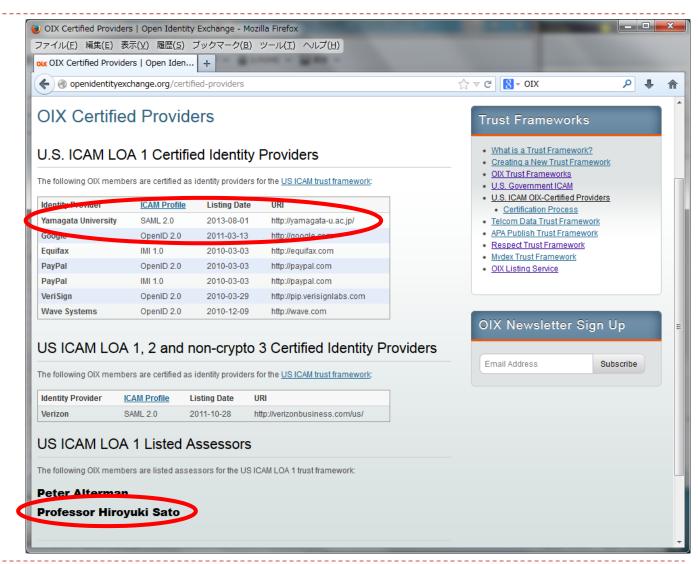
▶ 2013/8/1付





OIXのLoA 1リスティング

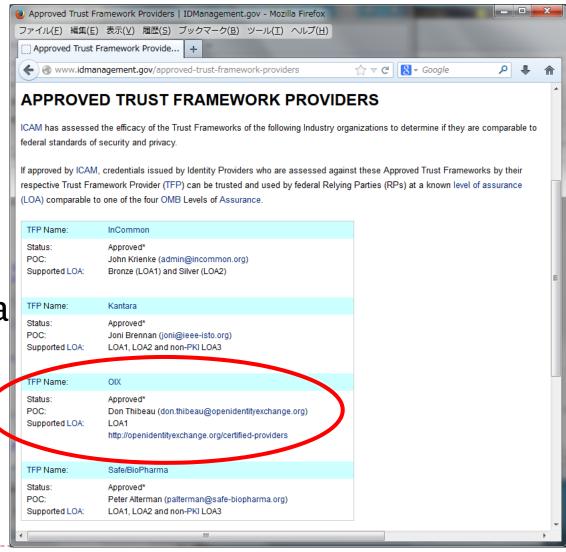
- ▶山形大学
 - ▶ 7番目





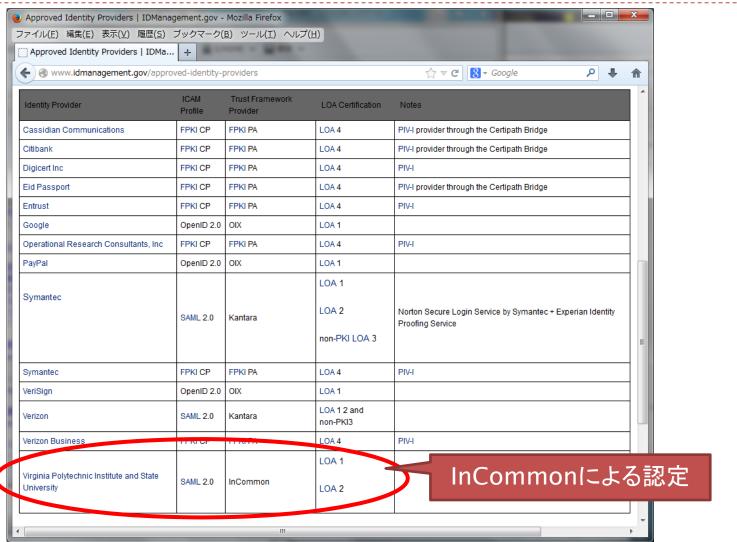
FICAMのTFPリスト

- InCommon
 - **1,2**
- Kantara
 - ▶ 1,2,non-PKI 3
- ► OIX
 - .
- Safe/BioPharma
 - ▶ 1,2,non-PKI 3
- FPKI PA
 - 4





FICAMの認定IdPリスティング





LoA 1取得の事務的な流れ

- ▶ 認定の流れ
 - 1. 大学等から学認に申請
 - 2. 学認にて保証レベルを評価
 - 学認定期アンケート、公開情報、規定類の提出、面接など
 - 3. 学認よりOIXへ申請
- ▶申請先
 - oix-loa1@nii.ac.jp
 - ▶ 最初のコンタクト時は、書類の提出等は不要
 - 相談窓口もここ
- 学認の「トラスト作業部会」が作業をします
- 作業の結果は「学認指定OIX LoA1指定Assessor」がOIXに報告 します
- ▶ OIXは理事会の決定としてLoA1を認定します



申請/審査に入る前に

- 以下のことが満たされているか事前チェックしてください
 - ▶ 学認の運用フェデレーションに参加し、「安定」してIdPを運用していること
 - 学認の各種規程を遵守している
 - ▶ ある程度の規模で、ある程度以上の期間、問題なく運用が継続している
 - ▶ 毎年行われる「学認アンケート」に誠実に回答していること
 - アンケートの回答もチェック対象です
 - 回答例の丸写し、運用レベルが判断できないような短すぎる回答等は審査の時にチェックされるでしょう

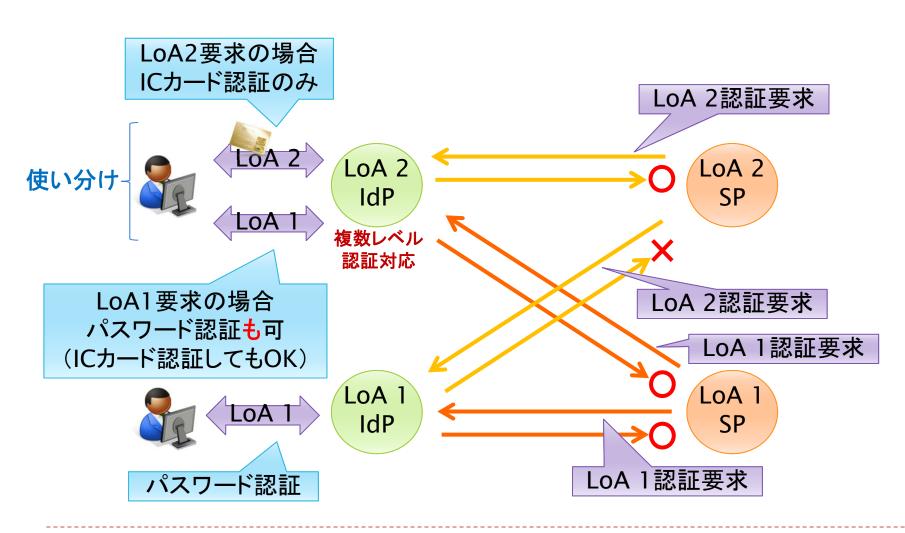


▶ Governanceにおいて、

- 規程類が死蔵されていないか?
- ▶ 現場権力を抑える規程がeffectiveか?
- Privacyにおいて、
 - ▶ 独立行政法人等の場合は法によってOpt-Inが強制されているが、 それ以外の場合は学内での規程の整備等が必要
 - uApprove等を導入しましょう
- ▶ Technicalにおいて、
 - ▶ NIST SP800-63には一度目を通しておくべきでしょう
 - ▶ 2006年版はIPAの和訳がある。2011年版、2013年版の和訳はまだ。
 - 基本は上記文書のこの文章に集約されます the authentication mechanism provides some assurance that the same claimant is accessing the protected transaction or data



複数のLoAレベルによる認証





複数LoAを活用した認証の利用イメージ

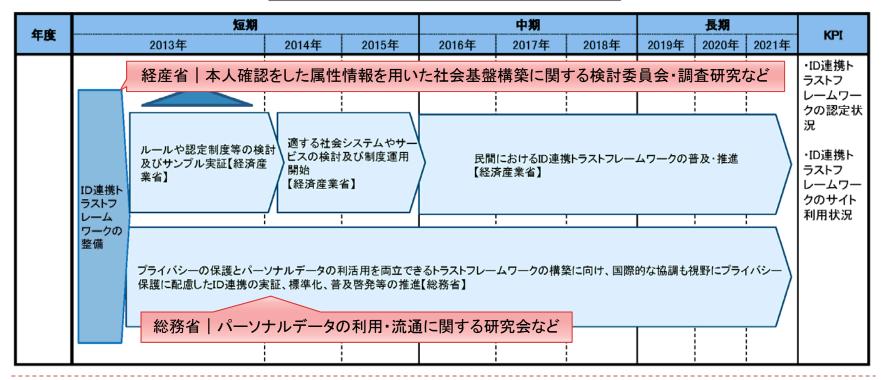
- ▶ 例えば、ICカード認証とパスワード認証の両方をサポートすることで、ユーザの利用スタイルに柔軟に対応可能
 - ▶ LoA 1サービスの利用時は、どちらの認証方式を選択してもOK
 - どんな端末からでも使いやすく
 - ▶ LoA 1(パスワード)認証後に、LoA 2サービスにアクセスすると、 ICカード認証が要求される(昇格)
 - ▶ ICカードを抜くと、LoA 2サービスからログアウト(降格)
 - ▶ LoA 1サービスは引き続き利用可能
 - □ SSOの利便性を保つ
 - トその他
 - ▶ LoA 2サービスでも、学内からであればLoA 1(パスワード)でもOK、等



日本国内におけるID連携の活用に向けて

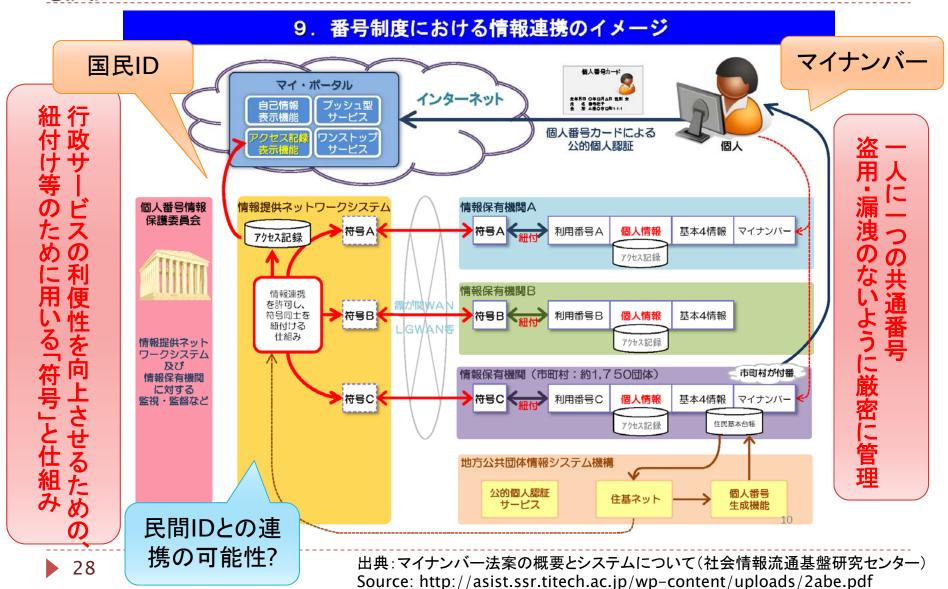
- ▶ 世界最先端 IT 国家創造宣言「工程表」
 - ▶ 平成25年6月
 - ▶ 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT総合戦略本部)

実施スケジュール (5. 規制改革と環境整備)





国民IDとマイナンバー





さらなる信頼性向上とサービス拡大に向けて

- ▶ IdPのLoA認定の普及
 - ▶ LoA 1はベースラインなので、難しい資格ではない
 - ▶ しっかり運用されていれば、基本的に新たな投資は不要
 - ▶ 組織として正式に安定して運用されていることを示すことが重要
 - ▶ LoA 2も大学にとってそんなに難しい話ではない
 - ▶ LoA 1+(LoA 1.5?)でも十分かもしれない
- ▶ LoA 2(LoA 1+)に準拠したサービスの展開
 - ▶ 日本国内における実用的なID連携の先行事例として
- ▶ 高度な認証技術への柔軟な対応のために
 - ▶ 様々な認証方式の任意の組み合わせに対応可能な、汎用認証インタフェースの実現